

文化財の保存・活用における住民の役割

－島根県大田市大森町を事例に－

The role of local residents in the preservation and utilization of cultural properties
- Case study of Omori town, Oda city, Shimane prefecture -

金田郁也
Kaneta Fumiya

1. 序論

(1) 研究の背景

近年、過疎化や少子高齢化の社会状況下で、文化財の確実な継承に向けたこれからの時代にふさわしい保存と活用のあり方として、多様な関係者が参画した取り組みが求められている。

島根県大田市にある石見銀山遺跡は、2007年にはアジアで初めての産業遺産として世界遺産に登録されている。発端となったのは、地元の住民組織である大森町文化財保存会の行政に対する調査依頼だった。大森町文化財保存会はその活動が認められ、1970年に文化庁長官表彰を受け、国内における民間の文化財保護団体の模範とされている一方で、その活動実態については十分に明らかにされていない。

(2) 研究の目的

本研究では、大森町文化財保存会および大森町民が主体のその他の団体等を対象に、住民が文化財の保存・活用にどのように関わってきたかを把握し、文化財の保存・活用における住民の役割について考察することを目的とする。

2. 大森町の概要

大森町は、石見銀山の盛衰とともに発展し、衰退してきた町である。明治時代には郡役所や裁判所などの諸官公庁が置かれ、周辺地域の政治的中心地とされていた。しかし、1923年に石見銀山が閉山すると、急激に人口が減少し、町内にあった諸官公庁も町外へと移転、廃止となった。1954年に大田市が誕生すると、過疎化が進行していた大森町は大田市への編入合併を望み、1956年の第三次合併で大田市となった。

3. 行政による町内の文化財調査、指定

大森町には、国指定の文化財も含めて46件の指定文化財があり、大田市全体の3分の1以上が集中している。また、史跡や建造物を中心に、絵画や彫刻など、多様な文化財があり、その分布も町内全域に広がっている。町内にある文化財の調査、指定の経緯も整理し、まとめた(表1)。

表1 町内の文化財調査、指定の経緯

年	文化財調査、指定
1960	県の有形文化財の指定開始
1962	県による石見銀山遺跡の調査(～1965年度)
1967	石見銀山遺跡が県史跡に指定
1969	〃 国史跡 〃
1971	市の有形文化財の指定開始
1967	県による民家緊急調査
1973	市による町並み保存対策調査(～1974年度)
1974	代表的な建築遺構6件が県史跡に指定
1975	〃 2件 〃
1983	市による石見銀山遺跡の発掘調査
1986	市による町並み現況調査
1987	重要伝統的建造物群保存地区の選定
1988	県・市による石見銀山遺跡の発掘調査開始
1996	県・市による石見銀山遺跡の総合調査開始
2002	石見銀山遺跡の史跡指定地の拡大(～2008年)
2007	「石見銀山遺跡とその文化的景観」世界遺産登録

4. 大森町文化財保存会の実態

大森町文化財保存会の活動実態について、発足経緯を把握した後、会の目指す方向性や組織体制の変化を基に、発足してから現在までを4つの時期に区分し、整理した。

(1) 大森町文化財保存会の発足

1956年9月の大田市編入合併を契機として、1957年4月に大森町の全戸加入で発足した。大森町内の文化財の保護を目的として、住民が努力をすると同時に、大田市に対して協力を仰ぎながら保護を実現していこうという狙いがあった。

会の体制として、全戸から年額120円の会費が集められ、会の運営費用に充てられた。また、役員と4つの部会に基づく部員が任期2年、無報酬で任命され、会の活動に関わる業務を担務した。

(2) 保存会創成期(1957～1968)

創成期は、行政に協力を仰ぎながら地元で努力をした成果として、石見銀山遺跡の国史跡指定が実現した時期である。結成後すぐに大田市に対して文化財修復の陳情を行い、地元としても案内板の設置や遺跡周辺の清掃を行うなど、文化財の整備を行った。1962年には、県に対して遺跡の文化財指定のための調査を依頼し、実際に調査が始まると、現地での案内や資料の提供などで協力し、結果的に、石見銀山遺跡の文化財指定が実現した。

他にも、保存会長や役員を中心に郷土史研究会に参加し、主体的に調査研究に取り組んだ他、町内の社寺や史跡についての案内を掲載したパンフレットを作成し、来訪者に販売した。

（３）保存会発展期（1969～1984）

発展期は、町民に文化財の理解や保護への意識醸成を試みた時期である。新たに会報を発刊し、部会からの活動報告や文化財に関する説明などを掲載して町内に配布した他、年一回の町民全体の一斉清掃が定例事業となり、役員ではない町民も文化財に関わる機会が増えた。大森小学校の児童によって石見銀山遺跡愛護少年団が結成されると、史跡巡りの案内や文化財の学習活動を支援した。

また、1970年代に大森町の観光開発の議論が始まると、市との会議に保存会役員が出席し、町並み保存の調査が始まると調査への協力や会報を通じて町民に対して町並み保存への協力を呼びかけた。

（４）保存会成熟期（1985～1998）

成熟期は、町並み保存を通じたまちづくりが進められた時期である。町全体で町並み保存へ協力することが決まり、保存会の会長が大森町町並み保存対策協議会の会長を兼任して推し進めた。さらに、大田市の補助金増額を背景に、町並み保存地区を中心とした先進地の視察旅行を毎年行った。

一方で、同時期に行政や他団体の活動が活発化し、外部の活動への参加や協力する機会が増え、自主事業としての調査研究や整備は断続的な実施となった。

（５）保存会縮小期（1999～現在）

縮小期は、他の住民組織や民間団体の活動が活発化したことで、保存会の役割が縮小する時期である。民間団体の増加を背景に、保存会会則の全文改正を行って組織を縮小化し、外部の依頼に応える活動が増えた。保存会の役割は縮小したが、愛護少年団の育成、史跡の一斉清掃などの整備や文化財保護意識の醸成に関わる活動を継続している。

５．保存会以外の住民組織、民間団体の関わり

保存会以外で、大森町民を主体とする組織や大森町を中心に活動する団体について、活動内容と町内の文化財保存・活用との関わりを整理した。住民組織や町内に本社を構える企業、市民が主体の民間団

体など、様々な団体が町内の文化財と関わり、役割を担っていることが分かった（表2）。

表 2 保存会とその他の団体が担う役割

発足年	団体	整備	調査研究	観光	意識醸成	町並み保存	学習活動
1957	大森町文化財保存会						
	創成期（1957～1968）	●	●	●			
	発展期（1969～1984）	●	●	●	●	●	
	成熟期（1985～1998）	●	●			●	●
	縮小期（1999～現在）	●			●		
住民組織							
1966	大森観光開発協会	●		●			
1969	石見銀山遺跡愛護少年団	●			●		●
1976	石見銀山資料館		●	●		●	●
1982	一心会				●		●
2003	いも娘		●		●		●
企業							
1974	中村ブレイス株式会社					●	
1988	株式会社石見銀山生活文化研究所				●	●	
大田市町並み交流センター、公民館							
1992	大田市町並み交流センター		●		●	●	●
	大森公民館		●		●		●
他の民間団体（大田市民が主体）							
1995	石見銀山ガイドの会			●			●
2001	家の女たち		●	●			●
2005	石見銀山協働会議と石見銀山基金	●					●

6．結論と考察

保存会創成期において、住民主導により史跡指定が実現し、発展期において町内で文化財保護意識の醸成が図られた。結果的に、成熟期以降で行政や民間団体が参画し、保存会の役割を受け継いだ取り組みや、新たな取り組みによって町全体が発展してきていることが分かった。現在は、様々な主体が役割を補完し合いながら文化財と関わり、まさに多様な主体が参画した文化財の保存・活用が行われている。

現在の状況が生まれる発端となったのは大森町文化財保存会の存在であることに意義がある。住民でも出来ることに主体的に取り組んだ結果、地域全体で文化財の保護意識の基礎が築かれた。現在も町民全戸加入の組織として存続し、住民の文化財保護意識を支えている。近年、大森町への移住者が増加していることから、文化財の確実な継承に向けて、今後もその役割が期待される。

参考文献

- 1) 大森町文化財保存会（1969）『石見銀山』
- 2) 大森町文化財保存会「事業報告」1987～2022年
- 3) 島根県大田市（1968）『大田市誌 十五年のあゆみ』島根県大田市
- 4) 島根県大田市（2006）『史跡 石見銀山遺跡 保存管理計画書』島根県大田市
- 5) 島根県文化財愛護協会（1966）「ルポルタージュ 文化財愛護モデル地区 大田市を訪ねて」『季刊文化財』1、p.23-30

Abstract: Many designated cultural properties are concentrated in Omori town, Oda city, Shimane prefecture, that was related to the efforts of the “Omori Town Cultural Property Preservation Society” to appeal to the government and raise awareness of the necessity to protect cultural properties. Today, various entities in the private sector, including local residents are participating in the preservation and utilization of cultural properties in Omori town. Although the role of the “Omori Town Cultural Property Preservation Society” has shrunk, it continues its activities and serves as the basis for awareness of the protection of cultural properties.